

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	田所 竜介
所属機関名	生命科学部生物科学科
職位	准教授
在籍年	6

教育の責任

生物科学科および大学院の生物系の専門教育において、動物の体の仕組みや、生物学、そして皮膚分野の講義と学生実験を担当している。工学部バイオ応用化学科においては、基礎から応用までの生物学全般や専門英語などを担当してきた。卒業研究および修士研究のための研究室担任をはじめ、2025 年 1 年次クラス担任業務を持っており、学部生の学修指導だけでなく、ゼミ生の研究指導や就職活動の支援も担っている。

教育の理念

生物学は急成長を遂げている分野であり、医薬・医療・ヘルスケア・環境などをはじめとして、将来、学生たちが活躍できる業種は多岐に渡る。いずれの分野においても根幹となるのは生物学であり、学生たちには大学生としてしっかりとした生物学の土台を築いてもらう。さらに、教科書レベルの生物学がどのように活用・応用され世の中の中の役に立つのかを深く理解してもらい、自身の興味や進むべき道を切り開いて欲しいと考える。卒業までに、社会で要求される情報収集力・論理的思考力・文章能力・プレゼンテーション（コミュニケーション）能力をはじめとしたトータル力を養うと共に、何より新しいことを見出す喜びを知って欲しいと考える。本学には、高校や大学入試で辛酸を舐めた経験を引き摺りながら学年を重ねる学生もいるが、本学で学び社会に羽ばたいて良かったと胸を張って、社会で活躍できるように教育したい。

教育の方法・方針

教育理念の具現化に向けて、基本知識の徹底から学問の活かし方までの理解を深める。卒業までに、就職や大学院進学に必要なトータル能力を身に付けさせる。

<基本知識の徹底>

- ・化粧品開発や美容医療分野などで必要となる皮膚についての基礎をしっかりと定着させる。皮膚については良い教科書が存在していないため、独自に講義資料を作成し、他大学では受けられない講義を展開している（講義資料 参照）。
- ・大学修了時点で必要となる生物学の知識をしっかりと教える。高校でカバーする基礎的なレベルから、大学院進学してもやって行けるレベルまで引き上げる。
- ・中間試験とその振り返り、最終回の総合的な振り返り学習などを始め、重要な部分を反復して学べるように取り組んでいる。
- ・学生の好奇心を掻き立てたい。講義では動画を用いて学生に生物のイメージを実感してもらえようにしている。必要に応じ、小道具を持ち込み実演講義も行っている（皮膚水分測定・化粧・色紙による発生の理解など）。
- ・単調な講義にならぬよう、動画や実演も多用し、抑揚をつけて話したり、教壇から降りて身振り手振りを付けながら、学問の面白さを熱く伝えるよう心がけている。

<学問の活用・応用（視野を広げる）>

- ・幅広い視点から生物学を見渡すことのできる能力を養う。例えば化粧品のみでなく、幅広い

トピックスを盛り込み講義を行うことで、幅広い視点で将来の選択ができるようにする（資料：化粧品開発のための皮膚生物学）。

・生物学共通で学ぶ知識の定着を図り、その知識がどのような場面で必要となり、活用されるのかを体感してもらうため、要所に生物学の基本知識の復習と役立ちポイントを交えて講義を行っている（講義資料）。これまで学んできた事柄が、実を結ぶことで、頭が整理されて理解がぐっと深まると考える。

・学生実験では、座学から研究へのマインドのシフトについて語り、生ものを「みる」ことが研究の基本であることを伝えている。卒業研究では、生物学において重要となる遺伝子組換え・細胞培養などの技術習得を徹底し、かつ研究活動を通して社会において要求される「情報収集能力・論理的思考力・プレゼンテーション（コミュニケーション）能力」を養う。

・他研究室・他大学・卒業生と交流する機会を作り、広いコミュニティのなかで刺激を受けることで、将来像の明確化と広い視野で物事を見渡す能力の向上をはかる。

・思いをもって必死に努力すれば、例え現状が思うようにいなくても、人生が切り開かれることを伝えてゆきたい。

教育の成果

・講義を通して学生たちが、様々な自分の興味を発掘している（独自アンケート）。

・アンケート結果は概ね良好であり、講義の意図も伝わったと考える（大学授業アンケート）。

・成績も良好

・いずれの講義も受講生が多く、生物科学科の講義（選択）については、初年度に比べ受講生が増加しつつあるのは、学生の良い反応の表れであるとも考えられる（化粧品開発のための皮膚生物学 R6 65 人→R75 人、うち他学科履修 1 名）。

・学生研究では、世界初となる皮膚イメージング法を開発するなど、新たな発見や創造の喜びを体験する学生もいる。

今後の目標

教育理念を具現化するために、日々研鑽を重ねより良い教育を行えるよう工夫と努力を重ねることに尽きる。全学生をボトムアップから飛躍させたいと望むが、学生のモチベーションは多様であり、できる限り多くの学生に有効な教育が何であるか日々頭を悩ませる。学生アンケートや反応などを反映させて教え方を常に改良し、学生の集中力や興味を維持するために、講義内での実演を増やすなどの工夫もこらし理想的な講義を目指す。卒業研究においては、研究活動を通して、先に述べたトータル能力を向上させるだけでなく、社会人として最低限必要となる学姿勢や礼儀・規律についても教育できるよう努力したい。それらの教育を通して、学生の思いに近い就職を実現に向けてサポートしてゆく。アカデミックな研究者に興味を持つ学生についても、将来研究の第一線で活躍できるよう能力の育成に全身全霊取り組む。

根拠資料

・独自講義資料（化粧品開発のための皮膚生物学、皮膚毛髪の発生再生学）

・独自アンケート（化粧品開発のための皮膚生物学）

・大学授業アンケート（化粧品開発のための皮膚生物学、皮膚毛髪の発生再生学）

・授業参観記（化粧品開発のための皮膚生物学）